

令和6年度八尾市衛生問題対策審議会 会議録

日 時	令和6年11月14日（木）午後2時～
場 所	八尾商工会議所 3階 大ホール2
出席委員	貴島会長、清水副会長、吉田委員、西岡委員、安田委員、藤原委員、宮澤委員、西村委員、片山委員、中井委員、豊口委員、山本委員、小原委員、角田委員、辻田委員、西川委員、林委員、井上委員、梶田委員、北尾委員、藤田委員、山口委員 【オンライン】川崎委員、磯委員（途中参加）
欠席委員	武田委員、中野委員、福森委員、田邊委員、亀寄委員
事 務 局	大松市長、北村保健所長兼健康まちづくり科学センター総長、高山理事、森田健康福祉部次長兼保健所副所長、湯本健康福祉部次長、大和保健企画課長、岡堂保健衛生課長、友田保健予防課長、橋本健康推進課長、山本健康保険課長、西澤こども健康課長、羽山健康福祉部参事、道本健康福祉部参事、植田健康福祉部参事兼健康まちづくり科学センター所長、高尾健康福祉部参事、高橋健康福祉部参事、田村保健衛生課長補佐、朴井保健予防課長補佐、青木保健予防課長補佐、河合健康推進課長補佐、小宮健康推進課長補佐、須釜こども健康課長補佐

○事務局

それでは、ただいまより令和6年度八尾市衛生問題対策審議会を開会させていただきます。

この会議は、本市の「会議の公開に関する指針」に基づき公開とし、会議録を作成するため、会議の内容を録音させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、会議時間につきましては1時間30分程度を予定しておりますので、議事の進行にご協力いただきますようお願いいたします。

委員の皆様方におかれましては、ご多用のところ、ご出席を賜りましてありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、保健企画課 課長補佐の上原でございます。

何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本市では、平成30年10月に「八尾市健康まちづくり健康宣言」を発布、令和4年3月に「八尾市健康まちづくり計画」を策定し、「みんなの健康をみんなで守る 市民が主役の健康づくり」の基本理念のもと、「健康寿命の延伸」「健康コミュニティづくりの推進」を基本目標として、健康づくりの推進に取り組んでおります。

本審議会は、本市の保健及び地域医療に関する諸問題につきまして、保健・医療・食育など、様々な角度から審議するため、市長の附属機関として、衛生諸問題に係る解決策及び地域住民の健康の保持増進等の地域医療についてご審議いただく審議会となっております。

皆様の忌憚なきご意見を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、はじめに「八尾市健康まちづくり宣言」を唱和させていただきたいと思います。皆様、お手元の資料「八尾市健康まちづくり宣言」をお持ちになって、ご起立をお願いします。私が宣言の前文と5つの本文を読み上げます。皆様は本文の「ひとつ、」の部分から、私に続いてご唱和をお

願います。

(八尾市健康まちづくり宣言の唱和)

○事務局

それでは、本年度初めての審議会となりますので、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。私の方からお名前をご紹介しますが、ご紹介の順番については順不同となっておりますので、よろしくお願いいたします。

(委員の紹介)

○事務局

次に、本日欠席のご連絡をいただいております委員のお名前をご報告させていただきます。

(欠席委員の紹介)

○事務局

本審議会規則第6条第2項の規定によりまして、委員29名のうち、本日の出席委員は24名であり、委員の半数以上が出席されておりますので、この会議は成立いたしますことをご報告申し上げます。なお、欠席委員から、当審議会の議決に関し、会長に権限を委任する旨の委任状をいただいておりますのでご報告させていただきます。

それでは、ここで大松市長より、ご挨拶をさせていただきます。

○大松市長

本日は、お忙しい中、審議会にご参加いただき、誠にありがとうございます。日ごろから、保健衛生行政だけでなく、市政全般にわたりご理解・ご協力をいただいておりますことに、改めて、感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、今年6月頃からは再び感染者数が増加していたところですが、現在、感染者数は減少しております。また、食中毒等の発生につきましてはコロナ禍において減少しておりましたが、現在では残念ながらコロナ禍以前の水準に戻りつつあります。本市におきましても、市民の皆さまの健康と安全を守るため、引き続き、医療及び公衆衛生体制の確保に努めてまいります。

早いもので、今年もあと2か月を切りました。1月1日は能登半島地震が発生し、また、8月8日には日向灘を震源とする地震が発生し、南海トラフ地震の想定震源域では大規模地震発生への危機感が相対的に高まっております。本市でも防災の強化を図っている中で、発災時には保健所を中心とした保健医療調整本部の立ち上げを速やかに行いながら、しっかりと災害時の対応を行ってまいります。また、報告として、先日八尾市医師会・八尾市歯科医師会・八尾市薬剤師会と八尾市が災害時における協定を締結させていただきました。委員の皆様の力を借りながら、市民の安全・安心を守っていきたいと考えております。

大阪・関西万博の開幕まで150日となりました。本市では健康まちづくり科学センターを中心と

して、市民の健康づくりに取り組んでおります。この度、本市と大阪大学・横浜市立大学とで共同研究を行い、健康寿命が推定できるアプリを開発しております。特許出願中であり、これを大阪・関西万博でお披露目するために準備を進めております。

また、本市におきましては、令和6年4月施行の児童福祉法改正に伴い、本年度から、母子保健と児童福祉を統合する組織再編を行いました。この後、事務局からの説明を予定しておりますが、住民の皆様の母子保健や児童福祉に係る事業が円滑に推進していくことができるよう、引き続き関係部局と緊密に連携してまいります。

最後になりましたが、11月と言え、汗ばむ日が続き、気候不順ではございますが、委員の皆様におかれましては健康にご留意いただきながら、ご活躍いただき、本市のさらなる保健衛生行政の推進に、お力添えをいただくことをお願い申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。本日は限られた時間ではございますが、最後までよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

大松市長につきましては、この後、別の公務が入っておりますので、ここで退席させていただきます。

(大松市長退席)

○事務局

それでは次に、審議会事務局職員の紹介をさせていただきます。

(事務局職員の紹介)

○事務局

続きまして、貴島会長よりご挨拶をお願いいたします。

○会長

八尾市医師会会長の貴島でございます。開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

これまで本審議会では昭和51年の設置以来、地域保健や精神保健、母子保健、その他衛生問題等、様々な課題について審議を行ってきたところであります。

最近では、2025年問題などの少子高齢化に関する課題への対応として健康寿命の延伸をめざすなど、国を挙げての取り組みが行われてきているところです。

本市におきましては、平成30年に「八尾市健康まちづくり健康宣言」を策定や令和4年度からの「八尾市健康まちづくり計画～健康日本21八尾第4期計画及び八尾市食育推進第3期計画～」に基づき、「みんなの健康をみんなで守る 市民が主役の健康づくり」を基本理念とした健康まちづくりが行われているところです。

子どもから高齢者まで、誰もが健康の大切さを改めて認識し、その中で自分にできることは何かを考え、地域ぐるみで健康づくりに励み、その取り組みを続けていくことで、健康寿命の延伸、活力ある地域社会を実現できるのではないかと考えております。

最後になりましたが、私ども医療関係者をはじめ、八尾市や各関係機関はより一層連携・協力し、

保健衛生施策に取り組んでまいりたいと考えております。委員の皆様方におかれましては、忌憚のない意見をいただくとともに、会議の円滑な進行にご協力賜りますようお願い申し上げます。簡単でございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

○事務局

ありがとうございました。

議事に進む前に、事前に送付しております資料の確認をさせていただきます。

次第、委員名簿、パワーポイント資料、令和5年度年報、令和5年度事業報告でございます。

不足している資料がございましたらお申しつけください。

また、資料：令和5年度事業報告のうち、P.13の母子健康診査結果につきまして、数値の修正がございます。差し替え資料を机上配布しておりますが、修正箇所といたしましては、

1. 個別健康診査の乳児一般健康診査の結果欄

異常無し1,366人（89.3%）としていたところを→1,365人（89.2%）に、

異常及び異常の疑い164人（10.7%）としていたところを→165人（10.8%）に修正となっております。

お手数をおかけし申し訳ございませんが、当該ページにつきましては差し替え資料をご確認くださいようお願いいたします。

それでは、貴島会長より議事の進行をよろしくお願いいたします。

○会長

それでは、議事に入らせていただきます。

お手元の次第に従い、保健所および保健センター事業のトピックスについて、4案件を、事務局から順に説明願います。なお、質問については、事務局の説明が終わってから一括して行いたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局

それでは、事前に送付しております資料のうち、「パワーポイント資料」と記載のある資料に沿ってご説明させていただきます。また、資料につきましてはモニター画面にも投影いたしますので、モニター画面または配付資料をご覧ください。

（保健所および保健センター事業のトピックスについて説明）

○会長

ただいま、事務局より各事業について説明がありましたが、委員の皆様、何かご意見はございませんか。なお、本日の審議会はオンラインでご出席の委員もおられることから、発言の際は必ずマイクをご利用いただきますようお願いいたします。

○委員

各会による災害協定について、10/31に締結したところです。概要はでき、今後マニュアルが必要と思われるが、その予定はどうなっておりますか。

○事務局

災害時の救護所のマニュアルにつきましては、まずは、救護活動に関する正しい知識の獲得を目的に、来年2月に研修会を開催する予定としております。この研修会の企画検討と並行いたしまして、救護活動のマニュアルをどのような形で各会の先生方と検討していくかのタイムスケジュール等につきましても、市として検討する中で、先生方のご意見もいただきながら進めていきたいと考えております。

○委員

災害協定については、備蓄について市で行うのか各会で行うのかも含めて今後検討していくということでしょうか？

○事務局

今後、救護活動のマニュアルを検討する中で、必要な物品等についても、ご意見を頂戴しながら進めていきたいと考えております。災害時の備蓄については、例えば、購入指定？もあり、大阪府でも医薬品の備蓄等についての協定もありますので、そのような状況も把握しながら、検討を進めてまいりたいと考えております。

○委員

災害は実際いつ起こるか分かりません。指示があれば八尾市歯科医師会としても対応に向けて準備したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員

八尾市の取り組み、そして、各会の取り組みは非常に心強い限りでございます。市民にもしっかりと知らせていただき、安心安全という意識と同時に、市民への啓発・自立した市民という認識を持ってもらうことについてもしっかりと進めることも重要でありますので、しっかりと公表していただけたらと思います。

○委員

薬剤師会としても、災害時の協定締結を踏まえて考えていかなければならないと認識しております。1月1日の能登半島地震の救護活動に参加した薬剤師の意見から、緊急時の薬より、日ごろから服用されている慢性疾患の薬が必要であったということを勉強させていただいたので、薬剤師会としてもどのような薬が用意できるかについて、一緒に検討していければと考えております。

○委員

各会の災害協定については、市民としてはとても安心しております。一人暮らしの方からの質問が来ているので、医師会の先生方にお伺いしたいです。災害に向けて、どれくらいの薬を余分にい

ただけるのかを皆さん不安に思っております。また、薬剤師の先生方にも、どれくらいの期間で、薬が調達できるかということをお伺いしたいです。

○委員

薬の種類によっては、たくさん持っておくのは危険な薬もあるため、かかりつけ医に相談していただくことが重要だと思います。また、薬の調達については薬の種類にもよりますが、災害発生時には直ちに用意することが困難であると聞きますので、今後、八尾市とも相談していきたいと思います。

○会長

処方箋については、最大90日処方することが可能と思われます。災害に備えるとすれば、1か月分あれば十分なのではないかと思われます。大阪は、都会のため、薬が1か月以上手に入りにくいということはないのではないかと思います。

○委員

私たち曙川小学校区まちづくり協議会は、地域の方々の健康を重要な議題として、健康づくりに取り組んでいます。保健師さんが地域で活動している事例について、紹介をさせていただきます。出張所に保健師さんが常駐していた頃のことですが、健康のために2本のポールを使ったノルディックウォーキングの教室を企画され、教室を受講した方々を中心にサークルが立ち上がり、10年経った今も、毎月2回活動を継続しております。また、八尾市危機管理課とも連携して、ウォーキングの際には、青色のベストを着用することで防犯も兼ねております。

昨年は高齢者に向けて話をさせていただきました。今年は、曙川公園美化ボランティアを対象に、「人生100年時代 高齢者の健康寿命に影響を及ぼすフレイル」に関するお話をしてもらいました。これからも、曙川小学校区まちづくり協議会は、計画に沿って、心身共に健康的に暮らせるよう、地域づくりに貢献していきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○委員

“大阪のおばちゃん元気”だと思っていましたが、健康寿命は全国40位だそうで、ノルディックが健康にいいということを知り、西山本小学校区でも、ノルディックウォーキングを始めさせていただき、現在50人が参加しております。他市の友人に、「八尾ってそんなことしてくれて、幸せなところだね」と言われ、八尾は恵まれていることを認識しました。健康ということに対して、八尾市は進んでいると思っています。

オレンジパトロールも八尾市で実施していただいております、楽しく健康づくりができるまちづくりになっていると思います。楽しく食べて、楽しく運動をして、楽しくおしゃべりをして、健康づくりを行い、健康寿命を延ばしていきたいです。曙川地区の話参考に、我が地域でも健康づくりに取り組みたいと思います。

○委員

子どもの健康づくりに八尾市は非常に力を入れておられます。当連合会としても、3歳児のおやつ作りや食育研修会、福祉事業など、様々な取り組みを行っております。特に尋ねたいのが、今回、

資料には虐待のことが記載されていませんが、実態はどうでしょうか？

○事務局

こども・いじめ何でも相談課とこども健康課の2課で、こども総合支援センター「ほっぷ」として子育て支援や児童虐待等に取り組んでおります。母子保健係と地域子育て支援係が令和6年度からこども健康課として一緒に業務を行っており、その中で、虐待対応が必要なケースにつきましては、今までより、より早い段階で、こども・いじめ何でも相談課と連携して対応をしているところです。

○委員

八尾市では、1歳6か月児健診を行っておりますが、各会の先生方の多大なる協力をいただいていると思います。その協力に対し、市も適宜、何らかの形でバックアップすることが必要です。その効果として、1歳6か月児健診の受診率は、年々伸びて現在97%になっております。残りの数%については自宅へ訪問を行い、ほぼ100%の把握を行っているということで、こどもの健康づくりに非常に力を入れておられ、大変心強く思っております。

○会長

資料35ページに虐待のことが掲載されております。

○委員

医師会、歯科医師会、薬剤師会の協定については、ありがたく感じております。今後とも、協力して進めていただければと思います。

○委員

消防行政へのご理解・ご協力いただきありがとうございます。特に救急業務に関しましては、医師会・歯科医師会等関係機関のご協力を得まして業務にあたっているところです。市内の救急件数につきましては、近年増加傾向にあり、昨年は最多の18,694件でした。今年度、現時点で昨年度の同時期の件数より80件程度増加しております。コロナが5類に移行し、長時間にわたるような救急件数は減っておりますが、件数としては増加傾向にありますので、今年の12月1日から消防本部でインスタグラムの立ち上げを行い、救急の適正利用の啓発を含め、消防業務についての情報発信を行っていこうと思っております。今後も、救急の適正利用について、ご理解・ご協力をいただきたいと思います。また、市民の安全安心のため、全力で取り組んでいきますので、皆様、どうぞ、よろしくお願いいたします。

○会長

どこかの地方では、消防士がインスタグラムで心肺蘇生を行っている動画の視聴回数が伸びているとも聞くので、八尾市でもぜひ、取り組んでいただければと思います。

○委員

母子保健事業の産後ケアについては、八尾市立病院でも今年度から事業を開始しました。産科病

棟の病室の1部屋を産後ケア病棟とし、2人入っていただけるようにしております。当面は、八尾市立病院で出産をした方に限っておりますが、今後検討していこうと思っております。ご好評いただいております、現在延べ25人、延べ56泊（1人最長6泊7日まで利用可能な事業）の利用があります。

また、八尾市立病院とPFIが協働して、こども食堂を月に1回、夕方5時から病院の食堂を開放して、小学生以下のこどもに来てもらって、交流しながら、夜ご飯を食べていただくという取り組みを始めました。常に3か月先まで、予約が埋まっている状況が続いております。少子化を食い止めるための取り組みが必要と思っており、病院としても取り組んでいきたいと思っております。

○委員

こういった審議会等に参加していると分かることはたくさんあるが、その動きが八尾市民にどの程度伝わっているかということに対し、非常に疑問に思っております。顔の見えるつながりがある地域についてはいいが、まだまだ隣の人を知らない地域もあると思います。SNS等が発達する中、様々な情報が発信されているが、情報の正確性も疑問視される部分もある。ただ、SNS等も利用しながら、八尾市からの情報の取得がもっと身近になるように、横のつながりの広い委員の皆様のアイデアを出し合いながら、有効な情報発信のシステムを作っていただければいいなと思っております。

○事務局

市としても、SNS・ホームページ・市政だより等、様々な媒体を活用して情報発信を行っており、地域でも人を通じた対面での情報発信を行うなど、試行錯誤をしながら、情報発信に取り組んでおります。今後も複合的に考えながら、情報発信に取り組んでいきたいと考えております。

○委員

健康寿命を延ばそうとする働きの中で、健康意識が高まっています。中核市になったことで保健所が八尾市に移管されたことや医師会、歯科医師会、薬剤師会の協力によって、健康の施策が進んでいる中、令和5年度の特定健診の受診率が33.5%となっているが、健診受診者が増えているのでしょうか。

また、寿命が延伸することで、認知症の方が増えていきますが、この人たちの予防医療としての施策があるのでしょうか。正常なうちから、専門の医師がいる医療機関を受診し、診断をしてもらうことが大事であることを研修で学びました。自身で認知症であることに気づいて専門の医療機関を受診することは難しいため、団体として、正常なうちから受診することが重要と個人的には考えておりますが、こういったことを特定健診と同じようなシステムで、専門の医療機関に気軽に通えるように、制度化できるのでしょうか。

○会長

特定健診につきましては、事業報告の5ページに掲載されております。今年度は、トピックスでの発表はしていませんが、次年度は特定健診やがん検診、脳血管疾患や心疾患の死亡率の経緯などをまとめていただこうと思っております。また、認知症に関しまして、山本委員、いかがでしょうか。

○委員

認知症については、多くの方が不安に思っておられるとは思いますが。特定健診には、認知症のスクリーニングは含まれておらず、これからの課題だと思いますし、認知症自体が未解明なところも多く、最近やっと、認知症の治療が、非常に不十分な状態で始まった程度で、まだ認知症の進行を抑える治療しか出来ていない状態です。今後は進歩していくとは思いますが、八尾市でも、認知症予防に、どう取り組んでいくかをまたご検討いただき、それに協力していきたいと思っています。

○委員

個人的に認知症の診断をしてほしいと受診したら、診断してもらえるのでしょうか。

○委員

診断することはできます。医師会でも、かかりつけ医の先生方が認知症の知識を深め、必要時に専門機関に紹介いただいております。

○会長

11月17日の健康展で、13時から「認知症の最新の診断と治療について」というテーマで講演していただくので、ぜひ、来ていただければと思います。

○委員

これを特定健診のように制度化することができますか。

○事務局

特定健診については、国基準により検査項目が決まっており、現在は、メタボリックシンドローム予防に着目した内容となっております。八尾市医師会の先生方とも相談しながら、検査項目について今度検討していきたいと思っております。

○委員

災害看護については、これまでも人材育成のための研修を行ってきましたが、それに加え、コロナを経て、未知なる感染症も災害の一つと捉え、昨年度から、感染も併せた総合的な災害看護師の育成に取り組み始めました。多くの参加者がおり、研修を受けるのも大変な状況にあります。看護師は、病気を治す場所で働くイメージがあると思いますが、健康づくりとなると、保健師の活動が重要になります。しかし、保健師の認知度は低い状況であり、子どもを対象とした事業の中で、保健師の仕事について広報できるよう、看護協会で行っております。

○委員

認知症の予防が重要であることは、その通りだと思います。八尾市と大阪大学とは、共同研究を行っておりますので、その中で、どのような形で健診を行えば認知症の予防・早期発見につながるのかを考えていきたいと思いました。

一方で、高齢化が進んでくると、予防に加えて認知症の方との共存の視点、認知症になっても健やかに、幸せに暮らせる社会の視点もますます重要となってくると思います。周りの方の知識の共

有や、ご本人の行動や心理的なところで対応できる部分をどう実現していくかという視点が重要だと思います。

「ポケモンスマイルではみがき大作戦in八尾」について、感銘を受けております。子どもの世代では、「健康」への興味が少ない中で、楽しく実効性のある取り組みだと思いますし、また、歯は、若い頃から習慣づけが非常に重要でありますので、おもしろい取り組みだと思います。短期間で行った取り組みを、終了後も定着しているのかどうか、また、他学年など周りに広がっているかの評価が事業の中に入っているのでしょうか。

○委員

この事業は、今年11月に開始し、今年度初めて行う事業です。令和7年2月末までで結果なども各医院から回収し、どの程度受診率があるのかを見ていくこととしております。また、本事業をきっかけに、毎年6月頃に実施している学校歯科健診後の精密検査の受診率がどれくらい上がるのかを見ていきたいと思っております。さらに、成人歯科健康診査の受診率の伸びが近年鈍化しておりますので、この取り組みにより、家庭での歯科健診に対する意識が向上し、成人歯科健康診査及び後期高齢者医療制度歯科健康診査受診率にどのように影響するののかも見ていきたいと思っております。

○副会長

事業報告書の5ページについて、特定健診受診率や後期高齢者医療健康診査の受診率については、2020年度が一番低くなっており、その後、回復していますが、特定保健指導の対象者数は減っている一方で後期高齢者医療制度の被保険者数が増えています。年齢とともに、特定保健指導の対象者が後期高齢者医療制度に移行していき、受診につながっていない可能性があることは心配に思いました。

特定健診を受けられるのは、高齢の方が多く、健康への関心が高い方が若い人に比べて多いので、経年的に健康への認知・関心が高くなっているのは、単に回答者が高齢化していることが原因である可能性もあるため、今後は、年齢階層で評価することが重要だと思います。

災害医療に関しては、マニュアルの作成を予定されているとのことですが、福島県の事例で考えると、大規模な災害においては避難所での生活が長くなりますので、感染症のリスクも検討しないといけないと思います。また、避難所生活において、集団で生活できないような障がい者への対応も考えておく必要があると思います。

歯科の取り組みについて、近年、舌みがきが注目されており、重要だと思いますが、知識はあっても、実際どうしたらいいのか分からないという状況もありますので、啓発が必要だと思います。舌みがきは、高齢者になって歯がなくなっても、オーラルフレイル対策として、舌の筋力保持に発展させることも意味があると思います。

母子保健における虐待については、見つけることが難しいと思いますが、子ども食堂で関係性ができてくれば、そこから情報を手に入れることも重要ではないかと思います。

○会長

保健所および保健センター事業のトピックスについては以上となります。

最後にその他としまして、この際事務局から説明すべき事項はありますか。

○事務局

事務局から1点、報告事項がございます。

保健企画課 参事の高尾からご報告いたします。

○事務局

冒頭の市長の挨拶でも触れさせていただきましたが、健康まちづくり科学センターの万博の参画の取り組みについて、ご報告させていただきます。

健康まちづくり科学センターでは、従前から、大学や研究機関等と共同研究を行っておりますが、現在、大阪大学と健康寿命の延伸をテーマに共同研究を行っております。健康寿命と申しますと、現在、集団の平均値が公表されていますが、個人の健康寿命は分からない状況となっております。また、健康寿命の延伸のために良いとされる生活習慣は一般論として様々な情報がありますが、個人にアプローチした健康寿命の推定や行動を推奨する仕組みが現在ございません。そのような状況の中、大阪大学と八尾市は、長年蓄積している八尾市民のデータを分析し、個人の健康寿命を推定したり、健康寿命延伸に役立つ行動を推定するアルゴリズムを研究し、大阪大学と八尾市の共同で、特許の出願をしております。現在、研究の成果を広く皆様に使っていただくため、WEBのアプリケーションの開発に取り組んでおります。来年開催される大阪・関西万博は「健康」がテーマになっております。地元での開催の機会を活用し、八尾市の健康まちづくりの取り組みを世界にPRするため、このアプリケーションを完成させ、万博で1週間出展したいと考えております。展示のテーマは「健康寿命のばす展～八尾のデータでいのち輝く～」と予定しております。今後、WEBアプリケーションが完成しましたら、市民の皆様にも活用していただきたいと考えております。以上、誠に簡単ではございますが、ご報告とさせていただきます。

○会長

他にないようでしたら、これにて八尾市衛生問題対策審議会を閉会させていただきます。

委員の皆様方には、議事進行にご協力いただきありがとうございました。

事務局は、各委員からの意見を最大限尊重し、今後の事業を進めてもらいたいと思います。

○事務局

本日は、委員の皆様より、貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございました。

それでは、最後に、保健所長の北村からご挨拶をさせていただきます。

○北村所長

本日は、長時間にわたりまして、本市における保健衛生事業に関しまして、種々ご検討・ご意見を賜り、誠にありがとうございました。委員の皆様からいただきました貴重なご意見は、今後の保健衛生施策に活かしてまいりたいと考えております。

新型コロナウイルス感染症につきましては、小康状態にありますが、例年とおり、インフルエンザの感染者数が増加傾向にありますので、保健所としましては、引き続き、感染症に対する警戒を継続しつつ、関係機関の先生方とともに、市民の命と健康を守っていく必要があると考えておりま

す。また、八尾市の健康まちづくり計画の理念であります「みんなの健康をみんなで守る 市民が主役の健康づくり」の目標に向け、市民自らが健康に対する意識を高め、さらには、家族や知人などの健康にも関心を持って、健康づくりの輪を広めていただくことが重要であると認識をしております。

いずれにいたしましても、八尾市全体で、健康まちづくりを含めました衛生問題対策をさらに進めていくためには、地域の住民組織、医療機関、企業、行政、専門機関が相互に連携・協力していくことが大切になりますので、委員の皆様におかれましては、今後とも、ご一層のご指導・ご助言を賜りますことをお願い申し上げまして、お礼のあいさつとさせていただきます。

本日は、誠に、ありがとうございました。

○事務局

以上をもちまして、閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。